引.
山鹿　延，1974：昭和47年7月4日～6日における熊本県の大雨，天気，21，298-306.
柳沢善次，1961：レーダより求めた雷雨発生分布，天気，18，185-192.

坪井八十二　根本順吉編

異常気象と農業

朝倉書店，1976，A5判，211頁，2,500円

近年の異常気象の頻発は気候変動によるものであり，今後の気候悪化が心配されている．農業技術が進歩し，冷害なども克服できるようになったとも言われるが，どうであろうか．本書によれば，明治の末から大正の始めに起きたような冷夏がまた現われれば，相当の減収になるらしい．予報というものは難かしいもので，現在問題になっている気候悪化が杞憂であればよいが，楽観はできない．本書はこのような事態にそなえて書かれたものである．

この種の本は近年多く出版されているが，一般読者を対象とした啓蒙的なものが多い．本書は農業技術者・気象技術者・研究者などを対象とした教科書的・専門書的な本である．これは，執筆者の顔ぶれ，気象・農業の専門家である根本順吉，坪井八十二，久保木光熙，関根勇八，中川行夫であることからみてもわかるであろう．

序論では，地球の寒冷化と異常気象，農業と気象災害に関する総括的なことが書かれており，異常気象の定義にもふれている．本論は2部に分かれ，Ⅰ部は冷害，Ⅱ部は干害について，それぞれの定義，気象学的指標，その歴史，生態，生理，気象との関係，時間・空間的スケール，予想法，対策などについて述べているので，実務家・一般農業経営者にもよい参考になるだろう．

異常気象と農業と言っても，その内容は非常に広いが，本書で取扱っているのは，農業生産技術に関連したことが中心である．また，日本の米作が中心となっており，干害では他の若干の作物についてもふれている．

この本の特色の1つは，多くの参考文献とともに，豊富な資料が巻末に付録として載せられていることである．10アール当たりの水稲収量，夏期気温，日照時間の経年変化のグラフ，日平均気温，積算温度，半旬ごとの降水量，日照時間などの気候表，冷害および干害の歴史年表，また索引も付いており，利用者には有用で，便利であろう．　（高橋浩一郎）

気象学会および関連学会行事予定

行　事　名	開催年月日	主催団体等	場　所
関西支部昭和51年度第3回例会（しぐれについて）	昭和52年3月17日（13時～）	日本気象学会関西支部	舞鶴海洋気象台
昭和52年度　日本気象学会春季大会	昭和52年5月24日～26日	日本気象学会	気象庁